長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１４８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和６年１月１８日(木)

雑感

冬休みが明けて2週間が過ぎようとしている。今年は短時間でお正月気分を抜け出し、我ながら時間の使い方を省めたい!?と思う。

大晦日から元日にかけて、自分自身にとって恒例の振り返りを行ってみた。「真摯に、謙虚に、感謝して」ということを振り返りの視点としているが、令和5年は概ねクリアだったと感じている。あくまで自己評価であり、他者評価はもっと低いものかもしれない。そういう自分も評価者として他者を評価している立場にある。それを踏まえ、自分自身を律するためにも年末、心に言い聞かせたことがある。それは相手に対する「思いやり」の有無についてだ。これがあるか無いかで、人の言動は大きく変化する。この発言によって相手はどんな気持ちになるだろうか？　この行動によって相手を不快にさせはしないか？　そうであれば、相手を嫌な気持ちにさせないで納得させる言動はどんなものだろうか？　管理職としてどのような言動が適当であっただろうか？　学校組織のトップとして言動は的確だったか？…

毎年、同じ様なことを考えながら年を越している。先輩校長からこう言われた。「それを考える限り悩みは付きまとう。管理職はそうあるべきだ。」　そうだそうだと言い聞かせながら令和6年がスタートしたが、年明け早々から悩む毎日である。

卒業前雑感　「友人と自分」

思春期の入り口に立っている子供達という話をしましたが、中学校では自我意識の芽生えによって、友人との付き合い方も変わります。友人関係は子供達に多くの経験をさせ、更なる成長をもたらします。しかし、その成長を傍から見ていると、「もろさ」を伴っていることが分かります。なかなか本音を出せずに苦しんだり、逆に本音を言える仲間を見つけると、とても楽しく学校に行くようになったり、メールに明け暮れ、絶えずつながりを求める付き合い方が多いように思います。このような中で、友人関係で悲しい思いや、寂しい思いをすることもあります。私達が中学生の頃とは、「親友」という概念も少し変化があるようです。

また、自意識が強くなってくる時期でもあり、「仲間からどう見られているか」を気にするようになり、反動で自己実現をしづらくなったりすることがあります。例えば、男子が恥ずかしがったり悪ふったりするのがまさにそれです。恥じらったりするのは自分と向き合っている証拠であり、あまり気にすることはありませんが、度が過ぎる時は、毅然とした態度で接することも、大人に対する礼儀や節度、尊敬の念を失わないでおく手立てです。

私達も中学生の時を思い出してみると、最も大切にしていたものは自分であり友人であり、その繋がりであり、今の中学生と変わらないもののようです。しかし、最近、友人とつながる方法が多岐にわたり、保護者としては「果たしてこれでいいものだろうか?」と悩む場面も多いです。根本にあるものは変わらないと思うので、中学校生活での変化を、子供達が成長していく「通過点」であることを自覚しておけば、大人も冷静に対処できるはずです。

現在、私の双子の息子達はアルバイトに精を出しています。さすがに大学生ともなれば、友達と繋がることがSNS頼みとはならないようで、2人とも軟式野球のサークルに入り、ゆる～く楽しみながら活動しています。その中で、やはり面と向かっての友達とのコミュニケーションを楽しんでいます。

シリーズ「自分を語る」#１４８

平成28年度教頭時代スタートは、地震がすべての始まりでした。不思議なことに、この年度は災害で始まり災害に終わるといいましょうか、年度末の3月には我が家の2軒隣が火事となり、大慌ての年度末でした。

その日は既に帰宅した後、私は風呂に入っていました。ボケ～ッと風呂桶に浸かってその日の振り返りをしていた時のことです。外から大人の大声が聞こえてきました。何と叫んでいるのか分からないのですが、住宅街での叫び声ですのでただ事ではないと感じ、慌てて風呂から上がり始めました。服を着ながら耳を澄ますと、避難という声が聞こえました。「避難?　地震ではないのに避難?　ということは事件?　こんな住宅街で?」　そうこうしているうちに次に聞き取れた言葉「火事です!」でした。外から聞こえていた声は警察官の声だったのです。

居間の窓から外を見ると、家一軒分の駐車場を挟んでのお向かいさんから火が上がっていました。娘が血相変えて2階から降りてきてひと言「お父さん、2階でも熱いよ!」　正直慌てました。とにかく、自分に出来ることは何だろうか、消火活動?いや違う、既に警察が来ているということは、消防にも連絡があっているはず、当然現場にも近づくことはできないでしょう。ふと視線を下すと駐車場に数台の車が…。あの車に引火したら…!?　考えるだけで恐ろしい!　私は我が家のホースを持ち出し、車にかけて少しでも引火を防ごう!?しかし、水道の蛇口を全開にしたにも拘らず、消防車からの放水の数百分の一でしたね。消防車の放水はきちんと水が出ているのに、私が手にした全開のホースは“霧吹き”みたいな感じでした。

ようやく鎮火し、改めて現場を見てみるとやっぱりというか全焼でした。原因は、高齢の住人が料理をする時に燃えやすい物が傍にあったらしく、燃え移った火が他に引火した、とのことでした。しかし、この火事による死者負傷者はゼロでした。実は、最初に火事を発見したのがパトロール中の警察官だったからです。「避難してください!」の声は警察官のものだったのです。確かに、地域住民が叫ぶとすれば「火事だ～!」ですからね。その警察官は果敢にその住宅に接近、中に住人が居るのを確認すると素早く救助したそうです。その短時間の間に、警察、消防に連絡し、住人まで救助した訳ですね。その素早さと的確な判断、命を懸けた行動に感動します。

さて、警察官や消防士、自衛官の方々は私達と同じ公務員です。それぞれに業務は違いますが、国民の期待に応え、結果を出さなければ容赦ないバッシングを受けることになるのです。パフォーマンスの結果が比較的解り易く短時間に出るのが警察、消防等とするならば、教師は少々違います。数年、数十年先に答えが出ると言って良いでしょう。私は、数年、数十年先の子供達の人生にどれだけの責任を負えているのか…。振り返ってみると…。今でも、初心を忘れないようにしなければ、子供達に影響が出そうです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）